

	課題（赤付箋）	良い点（青付箋）	方向性、方策等（黄付箋）	その他（緑付箋）
廃棄物	●無関心。 ●ごみ出しマナー違反がある上、あっても指導できない。 ●小型家電、廃油の回収BOXが周知できていない。 ●（資源ごみ）集団回収の回数に地域差がある。 ●少子化の影響で、学校での資源回収量が減少している。 ●マナーが重要と理解している一方で、守られていない。 ●コンビニ弁当などのポイ捨て・ごみがひどい通り（道）がある。 ●不法投棄防止の監視カメラの台数が十分でない。 ●県道沿いの溝に不法投棄されたごみが常にある。	●輪番制でマナーチェック、啓発している地区がある。 ●吸い殻のポイ捨ては減った。 ●不法投棄は減少しているように感じる。 ●千鳥川でごみを拾う方がいる。	●鳥居マークが有効。 ●（ポイ捨て、不法投棄への）罪の意識を持たせることが重要。 ●ペナルティをすることも必要。 ●周囲が助けることによって、満足感が得られる仕組みづくりが必要。 ●家にある使用しないものをリストアップして、必要な人に使ってもらえれば、うまくリサイクルできる。 ●不法投棄防止用の監視カメラの設置等、費用がかかる対策については、企業等から寄付は募れないか。	●ごみを拾う、地域をきれいにしたいという意識、行動を促す仕組みが必要 ●（市街化）調整区域は目につきにくく、捨てやすい。 ●市の苦情が減少している年もある。
地球環境	●無関心。 ●太陽光パネルの設置による自然の改変や、使用済みパネルの廃棄方法を考える必要がある。 ●省エネ設備の価格が高い。 ●電磁波や紫外線による影響・問題がわかりにくい。 ●うちエコ診断をもっと広める。 ●（知識向上のため）温暖化及びその影響に関する説明が必要。	●当たり前前と思っていたことが環境意識に変わった。（例：昔はただ冷蔵庫を開けっぱなしにはしてはいけない！と思っていたことが、環境のためだと思うようになった。） ●省エネ設備の機能が向上した。	●役所も一緒に（家電等の）不用品を回収、リサイクルする等。 ●CO2を吸収する仕組みの推進（グリーンカーテン、緑化・森林保全等）。 ●1人でなく、皆で取り組む呼びかけ。 ●CO2排出量の見える化等により削減意欲を向上させる必要がある。 ●祖父母等からの経験や知識を子供たちの教育に活かす。 ●ある製品を作ることにによるCO2排出量とそれを使うことで削減できる排出量の比較。（省エネ機器も製造時に環境に悪影響を与えている可能性もある。）	
自然環境	●無関心。 ●人が住みよい環境と生物が住みよい環境とのジレンマ。 ●河川の護岸工事や水路の整備に伴う生物への影響。 ●（猟、農家）後継者問題（担い手不足）。 ●農家の高齢化による耕作放棄地の拡大。 ●営農意欲が時代とともに変化している。 ●温暖化の影響による山田錦の品質低下。 ●川のイメージが悪くなった（危険なイメージ）。 ●昔に比べ川が濁っているように感じる。	●営農組合で水田を守るために後継者育成をしている。 ●自然に対する意識が向上していると思う。 ●播磨中央公園もあり、自然環境は恵まれている。 ●高校生（杜高校）による地産地消の取組がある。	●河川の豊かさと環境の豊かさの両立。 ●耕作放棄地の貸し出し。	
生活環境	●無関心。 ●通学路の整備が不十分（グリーンベルト等）。 ●道路植樹帯の管理が悪い場所は見通しが悪い。 ●防犯カメラがダミーだとバレている。防犯カメラの追加が必要。 ●公共交通（交通手段）の地域間格差（バス停に行くにも足がない等）。 ●車がないと生活できない。 ●短い距離でも車で移動する。 ●自主運行バスの運営が難しい。 ●太陽光発電設備付近のラジオのノイズ。 ●太陽光発電設備設置に伴う土砂くずれ。 ●空家が増加し、野良猫も増えた。所有者のわからない空家も多い。 ●集落内の道が狭い。 ●公園整備後の維持管理が地区役員任せになっている。	●今後10年で自動車は自動運転化されると思う。 ●公園の利用管理は地区により分担している場所もある。	●地域でもっと広範囲に自主運行バスを走らせる。 ●タクシー券でなく、バスを補助して活性化。 ●病院への定期便も必要。 ●ららんバス（小野市）のように、地域を走るコミュニティバスがほしい。 ●広域を巡回するバス路線が必要。加東市内のみならず、広域連合で考えるのも一つの手。	
環境協学働習	●無関心。 ●グリーンキャンペーンでは、参加者みんなでごみ拾いをするが、普段の生活の中でごみを見かけて拾う人は少ない。 ●環境問題と聞いてピンとこない。 ●イベントをしても人が集まらない。（環境系のイベント（「環境を考える」かとう市民の集い等）をしても人が集まらない。）		●協働の推進／環境学習は、他の4分野のベースとなっており、5つの分野は横並びではない。他の4分野全てに協働の推進／環境学習が必要不可欠な改善策である。最優先項目。 ●計画は協働の推進／環境学習を優先して策定すべき。他の4分野は、協働／環境学習によって改善・変革が見込まれる二次要素。 ●地区をあげて環境学習を行う。（環境問題に触れる機会の提供） ●市民の興味の大きいところから教育の初めの一歩として始めていく。 ●小学生に、ごみを拾う教育よりもごみを出さない教育が有効と思う。 ●イベントのPR方法の検討。（「環境を考える」かとう市民の集いを知らない人が多い）	●関心を持たせ、関係者に持って行かないと、意識や行動は変わらない。当然結果はついてこない。